

血液検査室から発信する付加価値を！～輸血・血液部門の連携～

◎杉田 拓海¹⁾
黒部市民病院¹⁾

今日では、依頼された検査業務だけをするのではなく、血液検査データの情報から追加検査の必要性の有無を確認し、他部門と連携して得られる結果を総合的に考える力量も必要です。また、検査データをより良く活用するためのシステム構築など、検査データに付加価値を付け臨床側に役立つ結果を報告できる事が、血液検査技師の役割であると考えます。

また、教育関連においても、個人の力量の評価、学識レベルの維持へ、どのように取り組んでいくかも重要な課題です。

本企画では、検査データに付加価値を付ける取り組みとして、血液部門以外の部門との連携を重視した事例報告と、血液検査技師育成の取り組みについて報告していただきます。

今回の部門企画を通し、今後の血液検査技師の役割について、皆様方と一緒に考える機会にしたいと思いません。

座長 大橋 勝春 独立行政法人 地域医療機能推進機構 三島総合病院
山崎 貴子 公益社団法人 石川勤労者医療協会 城北病院

演者 1. 血液検査室から発信する付加価値を！

輸血・血液の連携 杉田 拓海 黒部市民病院
生化学・血液の連携 広瀬 逸子 社会医療法人峰和会 鈴鹿回生病院
システム・血液の連携 塩川 一樹 静岡市立清水病院

2. 技師育成の取り組み

若手技師の育成 佐藤 聖子 藤田医科大学病院
臨地実習の取り組み 石田 真理子 国立大学法人岐阜大学医学部附属病院

3. 総合討論